

2010.2.14

登場しては消えていった電子ブック

最近再び、電子ブックが注目されています。電子ブックは、紙の本の良さを残しながら、電子化の機能をさらに加えた電子媒体と言えます。電子ブックを読む専用端末（電子ブックプレーヤー）の開発は、20年位前から行われており、これまで幾つかの電子ブックプレーヤーが登場しましたが、使い勝手の悪さ、コンテンツの不足、価格の高さなどがネックとなり、どれも普及せず消え去りました。

現在、米国のアマゾン社やアップル社が電子ブックを読める端末を販売し、日本メーカーも新しい専用端末の開発を行っています。昔と比べると、書籍コンテンツが充実し、携帯端末技術も格段に進歩し、電子ブックの利用環境は大きく変化しています。電子ブックが普及する可能性が出てきました。

<これまでの電子ブックと専用端末>

電子の本を構成する試みは、かなり以前からありましたが、電子ブックという言葉が日本で広く用いられるようになったのは、1990年にソニーが8cmCD-ROMを使用した辞典類を電子ブックとして発売してからです。CD-ROM専用プレーヤー「データディスクマンDD-1」も同時に販売されました。

しかし、CD-ROMを使用したこの電子ブックは、「本を読む」というよりは、「用語や記事を調べる」というためのものでした。



1991年には、アップル社の子会社であるボイジャー社が、MacのPowerBook向けにExpanded Bookと称するフロッピーディスク版の小説（Annotated Alice, Jurassic Park, Hitchhiker's Book）を発売し、読むための電子ブックが初めて登場しました。

1993年になると、NECが本を読むことができる電子ブック端末「デジタルブックプレーヤDB-P1」を発売しました。フロッピーディスクに入っているコンテンツを、文庫本1ページ程度の液晶ディスプレイ（5.6インチ）に表示して読むことができます。

93年の発売以来、多くの出版社が協力し、文学・小説・エッ

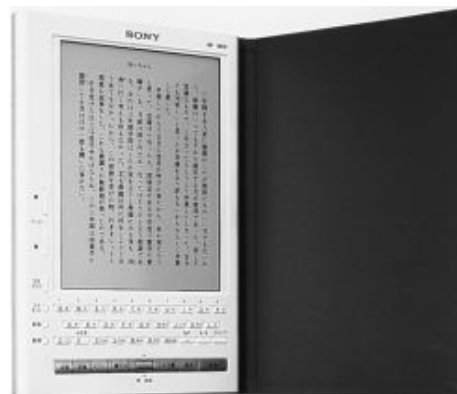


セイ・囲碁・ビジネスなど様々な分野の書籍が電子ブック化されましたが、実際には、囲碁の本が多く利用され、“囲碁端末”などと呼ぶ人もそうです。あまり売れずに、その後販売中止となりました。

NEC デジタルブックプレーヤーの発売から 10 年が経過した 2003 年に、松下電器産業・パナソニックシステムソリューションズ社が電子ブックプレーヤー「Σブック」を発売しました。画面サイズは大きくなり、7.2 インチの液晶画面を見開きで使用し、解像度も向上しました。

シグマブックでは、電子ブック（書籍コンテンツ）を単体で購入することができません。著作権管理機構として SD-ePublish を採用しており、利用者は公式サイトから電子ブックをダウンロードし、これを SD カードに保存して利用します。2006 年にはカラー表示に対応した次世代シグマブックが発表されましたが普及には至らず、2008 年に電子書籍端末の生産が終了しました。

Σブックの登場と同時期の 2004 年に、ソニーも e-Book リーダー「リブリエ」を発売しました。書籍コンテンツは、電子書籍配信サイト Timebook Town よりレンタルする方式です。しかし、これも売れ行きが伸びず、2007 年に生産を終了しました。



<そして、現在は>

電子ブックプレーヤーの利用が伸び悩む中、日本では携帯電話を利用した電子ブック市場が成長しました。パナソニックやソニーなどが、携帯電話向け書籍配信サービスの提供を行っており、例えば、ソニーの電子書籍配信会社であるパブリッシングリンクでは、人気のコミックから小説、写真集まで幅広いジャンルの作品をご提供しています。

日本では、電子ブック端末が期待したほど売れませんでした。米欧には多くの潜在ユーザーがおり、電子ブック端末が販売されていました。2007 年に発売されたアマゾン・ドット・コム社の「Kindle」が牽引する形で、さらに電子ブックの市場が拡大している状況です。Kindle は、2009 年に日本に初登場し今年には新製品「Kindle DX」が販売されました。

また、今年の 2 月には、アップル社が電子ブックも読める端末「iPad」を発売しました。アップル社らしく、デザインが洗練されています。日本のメーカーでも、シャープや東芝

などが電子ブックに特化したコンテンツサービスの提供や専用端末の開発に取り組んでいます。

kindle

BOOKS IN 60 SECONDS

NOW WITH
GLOBAL WIRELESS



アマゾンの電子書籍端末「キンドル」

電子インクを採用するため軽くて薄い、駆動時間が長い、3G 回線を経由してアマゾンで電子ブックのコンテンツを購入できる。



iBooks が読める iPad

アプリケーションストアから ソフトウェアをダウンロードし、古典からベストセラーまで揃った iBooks を購入することが出来る。購入した本は、すぐに本棚の上に表示される。背後から LED で照らされているため、スクリーンが鮮明で、低い光度の所でも読むことが出来る。



5型で1024×600画素の液晶パネルとタッチ・パネルを搭載したシャープの専用端末の試作品



東芝は NTT ドコモの携帯電話機「T-01A」に向けた電子書籍サービスを2009年10月に開始